

# 4 有職の母親の育児環境

本章では、幼児期の保護者のワーク・ライフ・バランスについて、有職の母親を分析対象に、子どもと一緒に過ごす時間、家族の育児・家事の実態などについて取り上げます。

## 第4章の分析対象

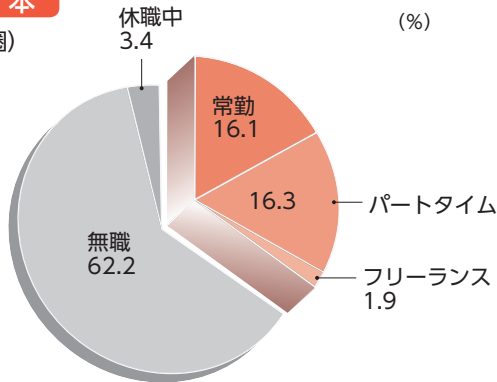
- ・就業形態について、「常勤(フルタイム)」「パートタイム」「フリーランス(在宅ワーク・自営業含む)」と回答した母親

	日本	中国	インドネシア	フィンランド
分析対象数	373	2,480	177	152

### ● 母親の就業形態

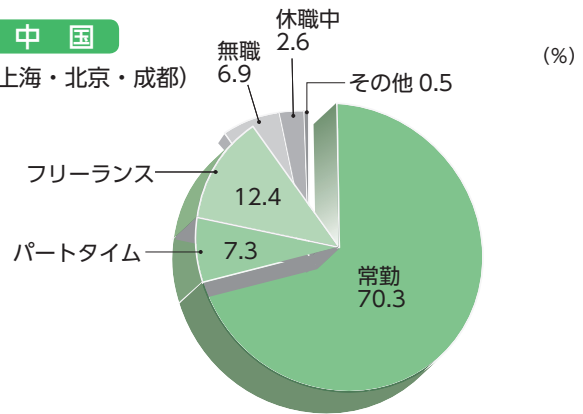
#### 日本

(首都圏)



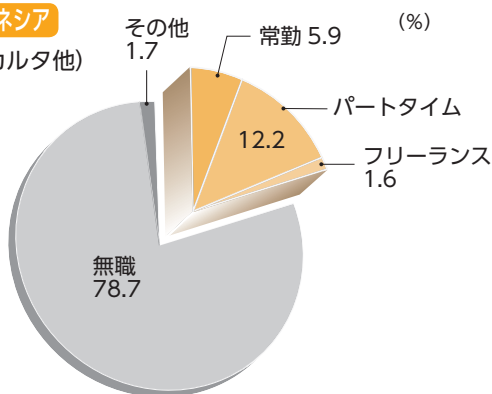
#### 中国

(上海・北京・成都)



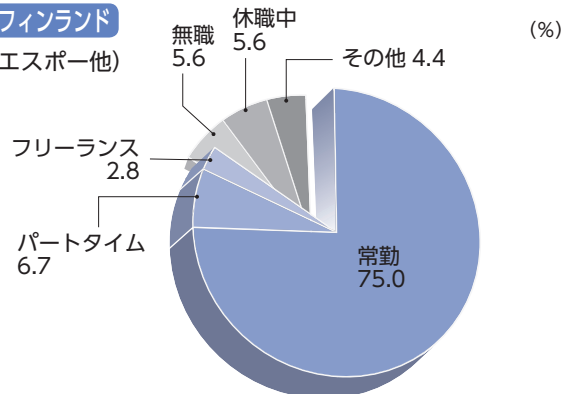
#### インドネシア

(ジャカルタ他)



#### フィンランド

(エスポー他)



分析対象者の内、常勤(フルタイム)比率：日本 46.9%、中国 78.1%、インドネシア 29.9%、フィンランド 88.8%

- ・父親に関するデータについては、有職母親のうち、有職の配偶者・パートナーがいる人の回答(日本：330人、中国：2,404人、インドネシア：156人、フィンランド：129人)

### ● 母親が同居している人(複数回答)

	日本	中国	インドネシア	フィンランド
対象の子	100.0	88.1	98.9	97.4
対象の子の兄弟	45.3	15.4	65.0	71.1
配偶者・パートナー	83.6	82.9	87.0	87.5
自分の父親	5.6	21.7	18.1	0.7
自分の母親	7.5	29.4	30.5	0.7
配偶者の父親	2.4	21.4	6.8	1.3
配偶者の母親	2.4	27.9	6.2	0.7
親せき	1.1	2.3	12.4	0.0
その他	0.0	1.7	0.0	2.0

※「自分の母親」、または「配偶者の母親」、または両方の母親と同居している比率

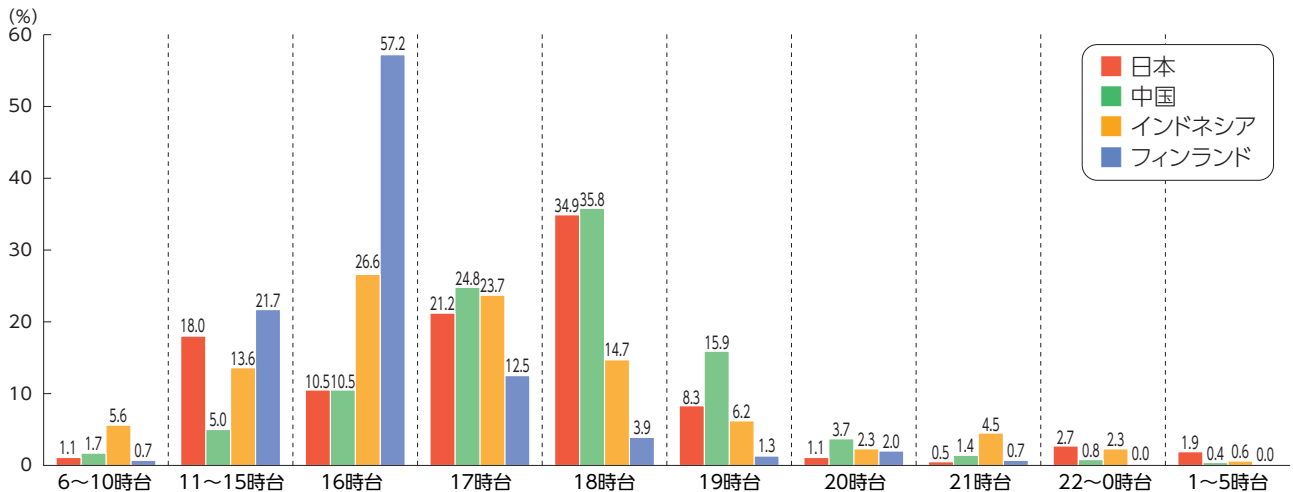
日本	9.9%
中国	54.5%
インドネシア	35.6%
フィンランド	0.7%

## 4-1 平日の帰宅時間

母親の平日の帰宅時間のピークは、日本と中国は「18時台」、インドネシアとフィンランドは「16時台」。父親の帰宅時間は、日本は「19時台」から「22～0時台」まで分散し、「22～0時台」がもっとも多い。中国は「18時台」、インドネシアは「19時台」、フィンランドは「16時台」がピーク。

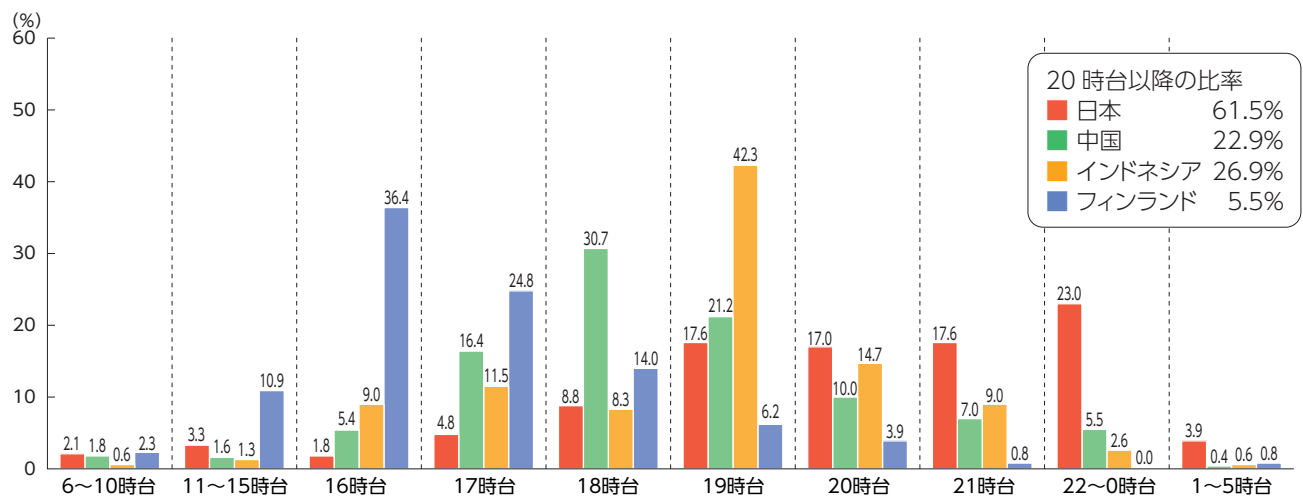
**Q** あなたは働いている日、平均して何時頃帰宅しますか。

図4-1-1 母親の帰宅時間



**Q** 配偶者・パートナーは働いている日、平均して何時頃帰宅しますか。

図4-1-2 父親の帰宅時間



各国の有職の母親の帰宅時間は、日本・中国は「18時台」がピーク、インドネシア・フィンランドは「16時台」がピークである。フルタイム比率が7割と高い中国が、もっとも帰宅時間が遅く、「18時台」35.8%、「19時台」15.9%である。日本は「17時台」と「18時台」が多い。フルタイム比率が3割と低いインドネシアは「16時台」と「17時台」が多い。フィンランドはフルタイム比率が8割強でもっとも高いが、帰宅は「16時台」に集中している。フィンランド調査監修者によると、勤務開始時刻・終業時刻が早いこと、保育園の閉園時間が早めであることが背景として考えられ

る。

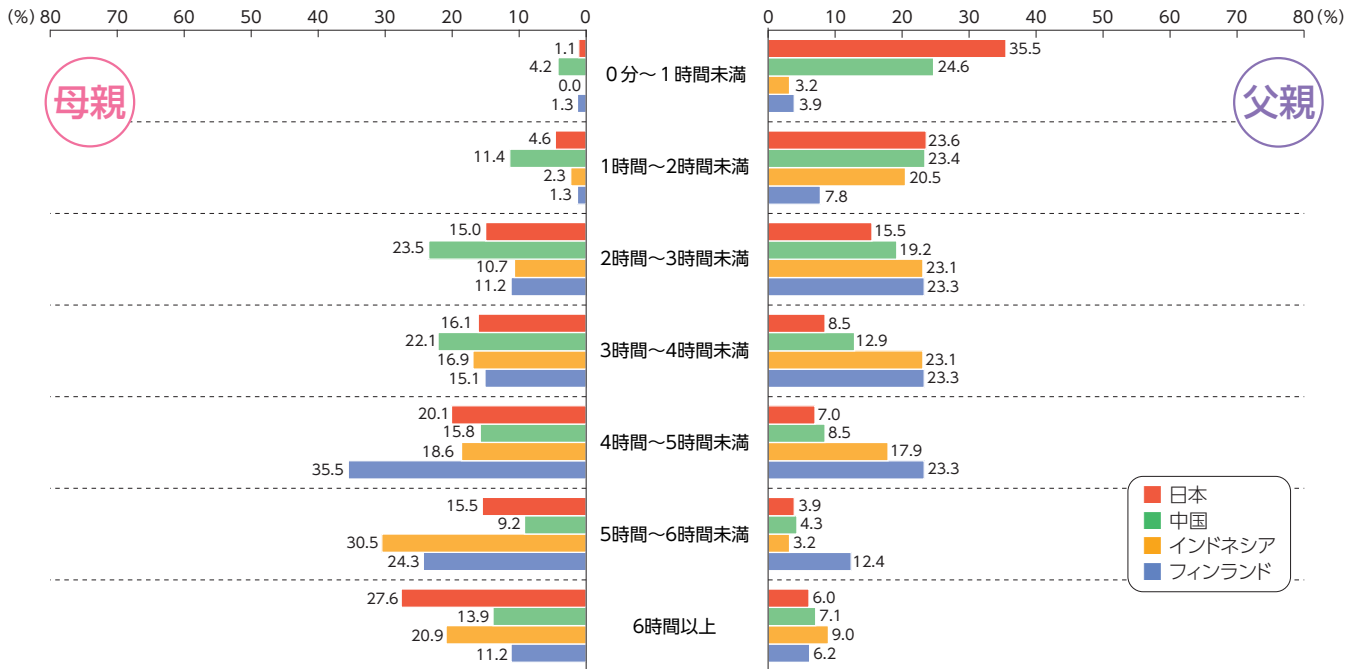
父親の帰宅時間は、日本は「19時台」から「22～0時台」に分散し、「22時～0時台」23.0%がピーク、中国は「18時台」30.7%、インドネシアは「19時台」42.3%、フィンランドは「16時台」36.4%がピークである。インドネシアの都市部は、交通渋滞の影響で、通勤に時間がかかることが多い。日本の父親の帰宅時間は4か国の中で顕著に遅く、「20時台」以降の比率をみると、日本は6割強に対して、中国・インドネシアは2割、フィンランドは1割に満たない(5.5%)。

## 4-2 子どもと一緒に過ごす時間

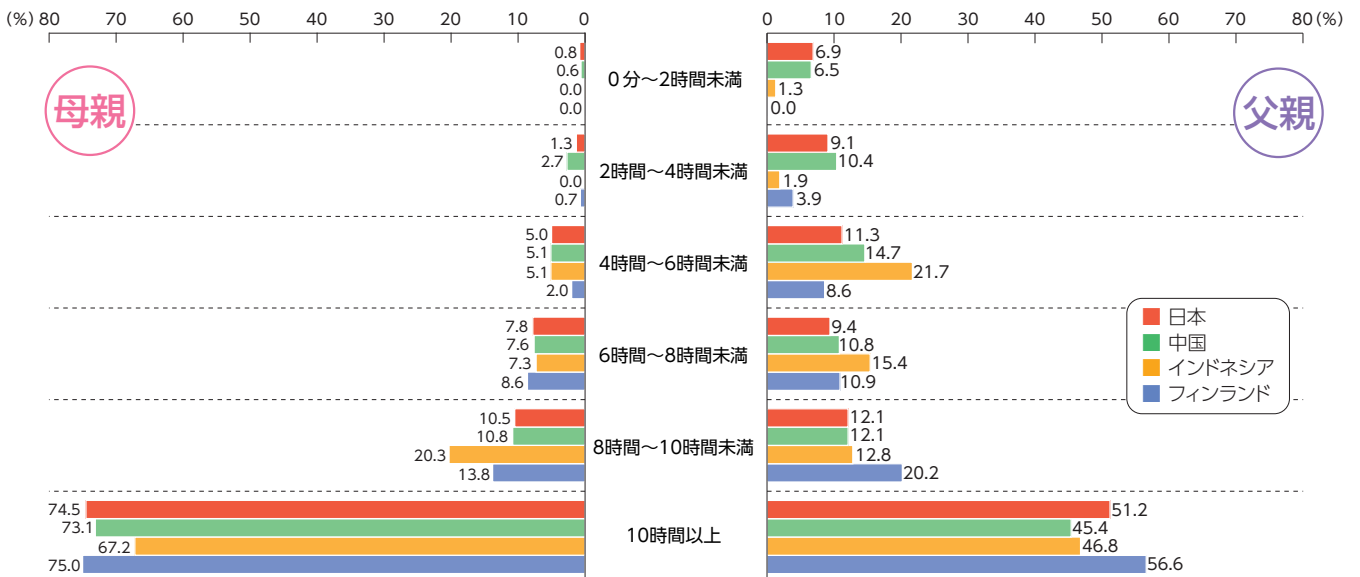
父親が仕事のある日に子どもと過ごす時間は、日本では「1時間未満」が35.5%で、4か国中、もっとも短い。休日は、4か国とも母親の8割、父親の6割前後は「8時間以上」子どもと過ごしている（睡眠時間は除く）。

**Q** あなた／配偶者・パートナーは、対象のお子様とどのくらい一緒に過ごしていらっしゃいますか。

**図4-2-1** 子どもと一緒に過ごす時間：仕事のある日（平日）



**図4-2-2** 子どもと一緒に過ごす時間：休日



※ 睡眠時間を除く。

仕事のある日（平日）に子どもと一緒に過ごす時間は、4か国とも、父親より母親の方が長い傾向にある。日本の母親は、「2時間～3時間未満」から「6時間以上」に分散している（図4-2-1）。パートタイムやフリーランスの母親が「6時間以上」と長い傾向にある（図表省略）。父親については、日本・中国の父親は、インドネシア・フィンランドの父親と比べて、子どもと一緒に過ごす時間が

短く、「2時間未満」が日本は59.1%、中国は48.0%である。日本・中国の父親について、帰宅時間別にみると、「20時台以降」に帰宅する場合、日本の51.3%、中国の52.3%は、子どもと一緒に過ごす時間が「0分～1時間未満」である（図表省略）。休日は、4か国とも、母親の6～7割、父親の4～5割は「10時間以上」子どもと過ごしている。

## 4-3 父親の育児・家事頻度

育児・家事ともに日常的にかかわる比率が4か国でもっとも高いのはフィンランドの父親。日本の父親は、「食事の後片付け」「ごみ出し」「洗濯」など、帰宅時間が遅くても取り組める家事にかかわっている。

**Q** 配偶者・パートナーは、家事や、対象のお子様の育児について、どれくらいしていますか。

### 育児の頻度

図4-3-1 子どもと一緒に外で遊ぶ

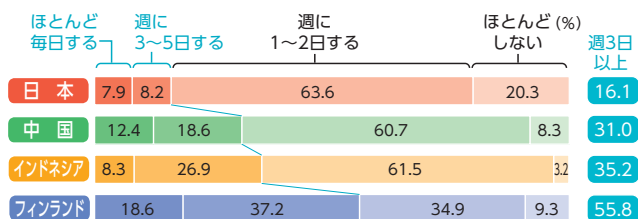


図4-3-2 子どもと一緒に室内で遊ぶ

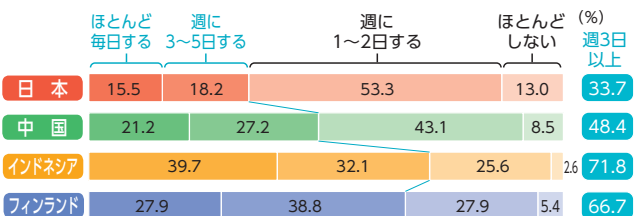


図4-3-3 子どもを叱ったり、ほめたりする

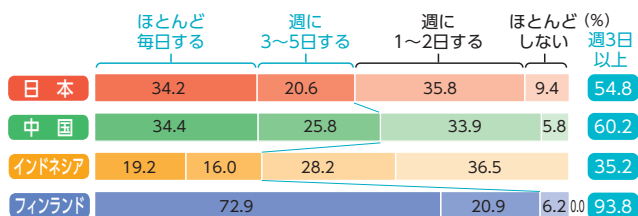
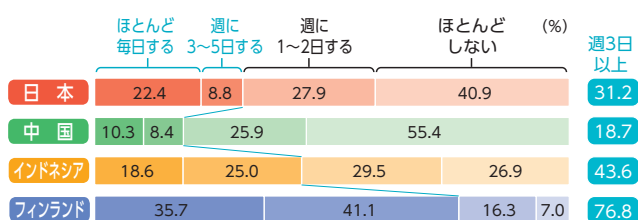


図4-3-4 子どもを寝かしつける



### 家事の頻度

図4-3-5 食事のしたくをする

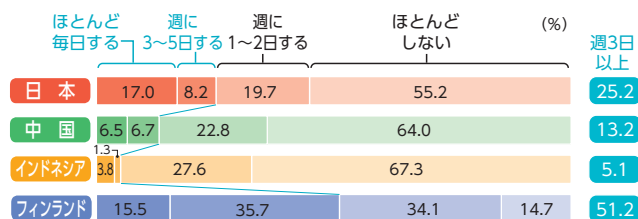


図4-3-6 食事の後片付けをする

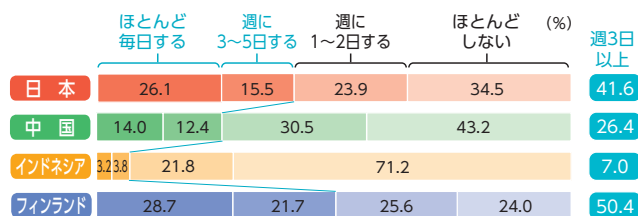


図4-3-7 ごみを出す

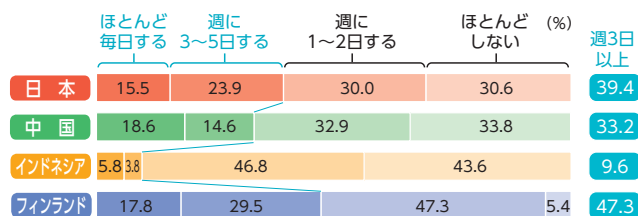
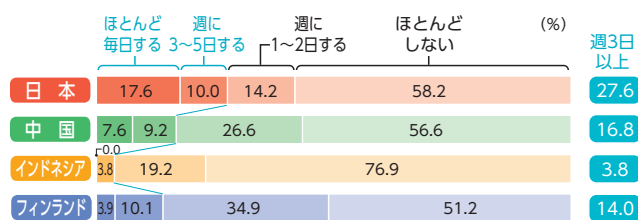


図4-3-8 洗濯をする



父親の育児・家事頻度について、帰宅時間がもっとも遅い日本の父親は、「週3日以上」の比率でみると、子どもとの遊びにかかわる頻度は、4か国の中でもっとも低い。一方、帰宅時間がもっとも早いフィンランドの父親は、子どもとの遊びは5~6割、寝かしつけは7割以上と比率が高い。幼児の就寝時刻は、各国とも21時前後であり(P.7図1-1-2)、育児は帰宅時間が遅いと、平日にかかわることが難しいと考えられる。

家事については、日本の父親は、「食事のしたくをする」「食

事の後片付けをする」「ごみを出す」については、フィンランドの父親について、「週3日以上」の比率が高い。「洗濯をする」については、もっとも比率が高い。日常的に行う家事の中でも、食事の後片付けや、ごみ出し、洗濯は、帰宅時間が遅くても取り組める家事であるため、日本の父親もかかわっていることがうかがえる。インドネシアの父親は、帰宅時間は日本より早いですが、家事にかかわる頻度が4か国の中でもっとも低い傾向である。

## 4-4 祖父母の協力

中国は、祖父母との同居率が高く(19ページ参照)、6割前後の母親が、「家事」「幼稚園・保育園などの送り迎え」「子どもを預かってもらうこと」について、祖父母の協力を得ることが「よくある」と回答。日本は、各項目について、「よくある」1割、「ときどき」1～3割で、「ときどき」協力を得る方が多い。

**Q** 次のことについて、対象のお子様の祖父母に協力してもらうことはどれくらいありますか。

図4-4-1 家事

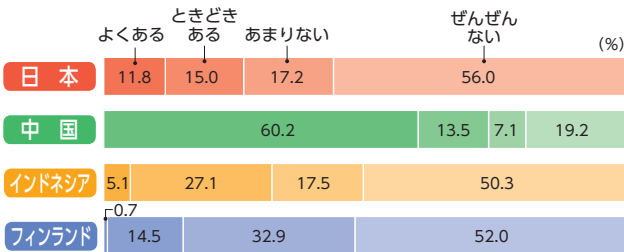


図4-4-5 子どもにかかる費用の援助

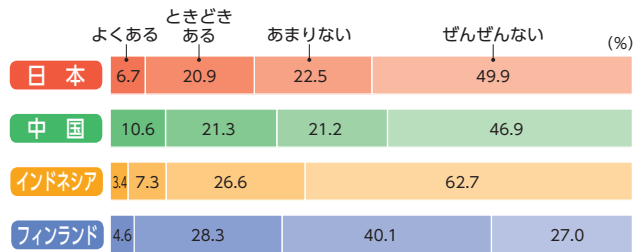
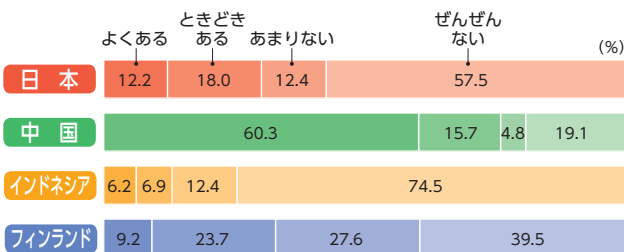


図4-4-2 幼稚園・保育園などの送り迎え



※ 就園者の母親のみ回答。

図4-4-3 子どもを預かってもらうこと

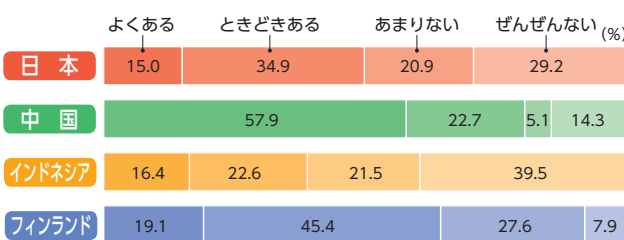
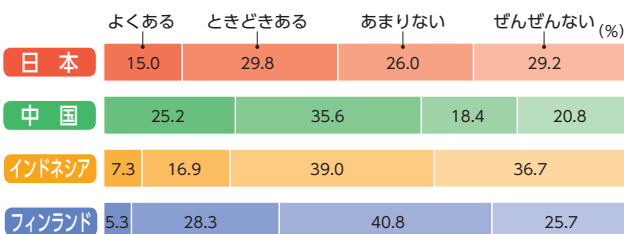


図4-4-4 子どものことに関する相談



※ 祖父母がいない場合は「ぜんぜんない」を選択。

祖父母の協力については、「家事」、「幼稚園・保育園などの送り迎え」、「子どもを預かってもらうこと」について、中国の比率が顕著に高く、「よくある」比率は約6割である。中国は母親の帰宅時間が遅くなると、祖父母の協力も多くなる(表4-4-1)。日本は祖母との同居率は1割と低く、園の送迎や子どもを預かることについて、祖父母の支援を「ときどき」受ける比率の方が高い。「子ども

表4-4-1 母親の帰宅時間と祖父母の協力  
(日本・中国)

		日本	17時台	18時台	19時台以降
家事	よくある	11.4	13.8	18.5	
	ときどきある	10.1	13.8	18.5	
	よく+ときどき	21.5	27.6	37.0	
幼稚園・保育園などの送り迎え	よくある	9.0	15.6	17.6	
	ときどきある	11.5	18.0	19.6	
	よく+ときどき	20.5	33.6	37.2	
子どもを預かってもらうこと	よくある	10.1	14.6	24.1	
	ときどきある	38.0	33.1	27.8	
	よく+ときどき	48.1	47.7	51.9	
		中国	17時台	18時台	19時台以降
家事	よくある	59.2	68.8	74.3	
	ときどきある	14.9	12.4	10.0	
	よく+ときどき	74.1	81.2	84.3	
幼稚園・保育園などの送り迎え	よくある	58.7	73.1	77.4	
	ときどきある	18.4	12.3	11.0	
	よく+ときどき	77.1	85.4	88.4	
子どもを預かってもらうこと	よくある	54.1	69.5	74.5	
	ときどきある	27.7	18.8	15.9	
	よく+ときどき	81.8	88.3	90.4	

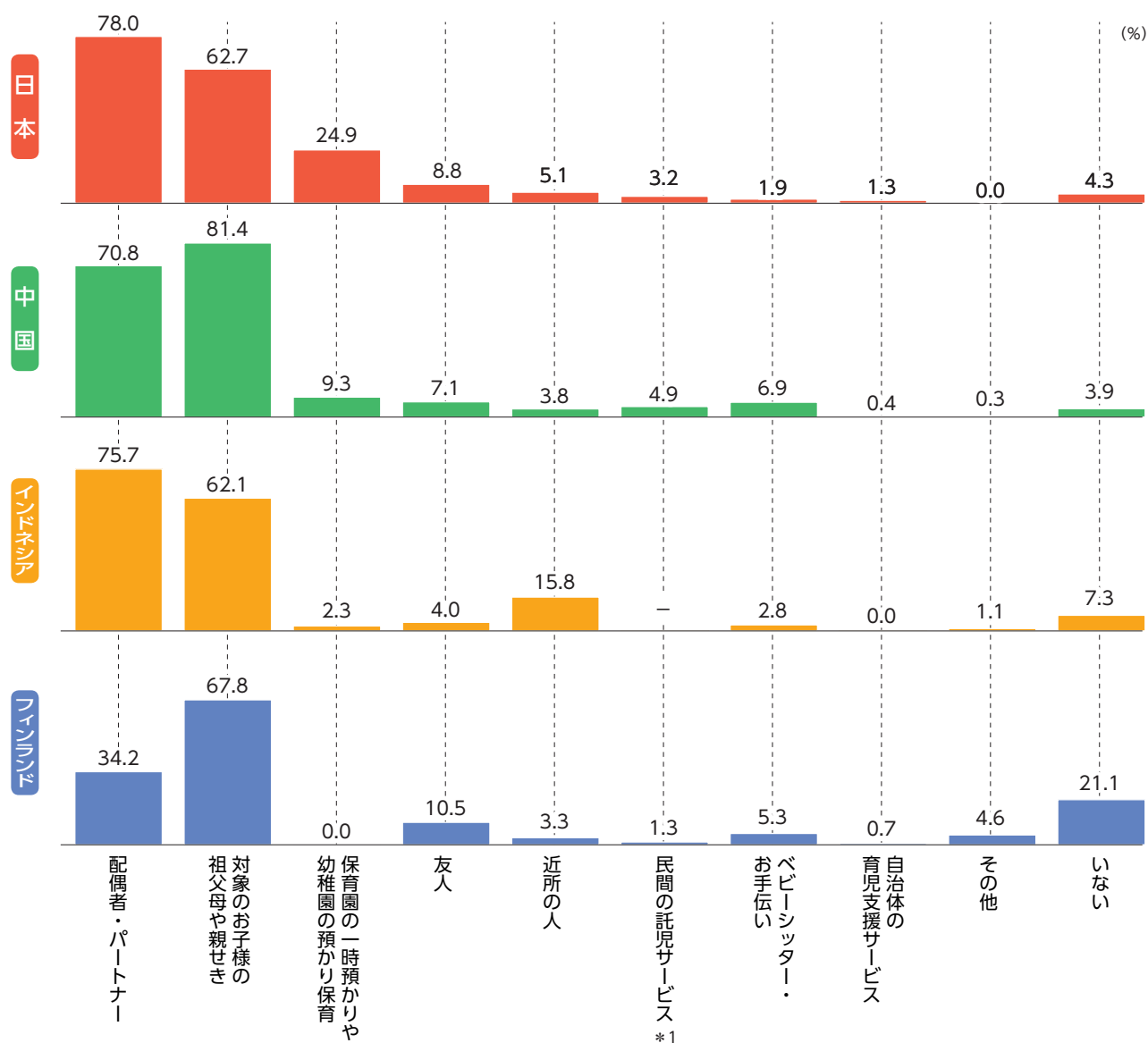
のことに関する相談」は、中国について高い。インドネシアは、全般的に、祖父母の協力を得る頻度が低い。フィンランドは、子どもの預かりについて、祖父母の協力を得る比率が中国について高いが、フィンランド調査監修者によれば、保育園の夏季休業時や、配偶者・パートナーと出かける時などに、祖父母の協力を得ているようである。

## 4-5 母親以外の子育ての担い手

4か国とも、「配偶者」はフィンランドを除き7割、「対象のお子様の祖父母や親せき」は6～8割が子育てを担う。家族以外では、日本は「保育園の一時預かりや幼稚園の預かり保育」24.9%、インドネシアは「近所の人」15.8%、フィンランドは「友人」10.5%。フィンランドは「いない」が21.1%。

**Q** あなた以外で、対象のお子様の面倒を見る人、機関、サービスはありますか（ありますか）。

図4-5-1 母親以外の子育ての担い手



母親以外の子育ての担い手について、複数回答できいたところ、4か国とも「対象のお子様の祖父母や親せき」が6割以上で、中国はもっとも高く、81.4%である。「配偶者・パートナー」は、日本・中国・インドネシアは7割以上だが、フィンランドは、本設問では34.2%と低い。しかし、実際はフィンランドの父親は日常的に育児に取り組んでいる(P.22参照)。フィンランド調査監修者によると、フィンランドでは、父親の育児参画は当然という意識があること、両親が離別

した場合も子どもの養育は共に担うことから、本設問では、離別した子どもの父親として選択した可能性が考えられる。家族以外の子育ての担い手は、各国の特徴がみられる。日本は園の一時預かり制度を利用(24.9%)、インドネシアは近所の人も子育てに協力(15.8%)、フィンランドは、友人(10.5%)と習い事の送迎などを分担するなどで協力しあうようである(フィンランド調査監修者より)。

## 4-6 有職の母親の生活に関する満足度

子育て、家事、仕事、仕事と家庭生活のバランス、現在の生活全般において、日本の有職母親の満足度は4か国の中で顕著に低い傾向。日本は、父親が「食事の後片付け」「ごみ捨て」「洗濯」などの家事に取り組む頻度が高いほど、母親の「仕事と家庭生活のバランス」満足度が高い。

**Q** あなたの現在の生活について、それぞれお答えください。

図4-6-1 自分の子育てについて満足している

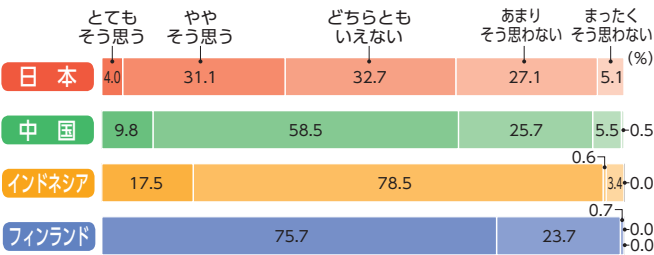


図4-6-4 仕事と家庭生活のバランスに満足している

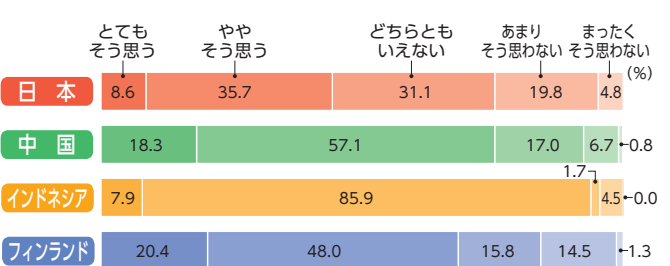


図4-6-2 自分の家事について満足している

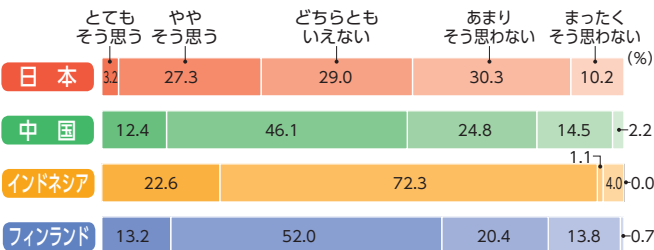


図4-6-5 現在の生活全般について満足している

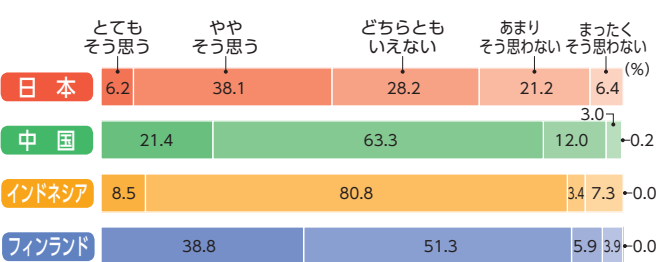


図4-6-3 現在の仕事について満足している

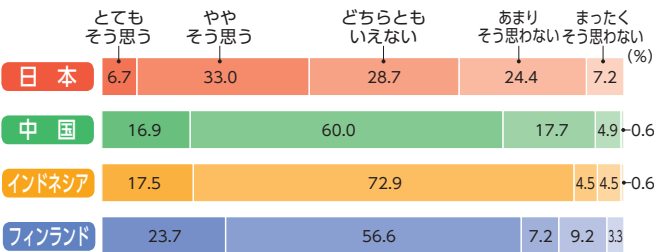
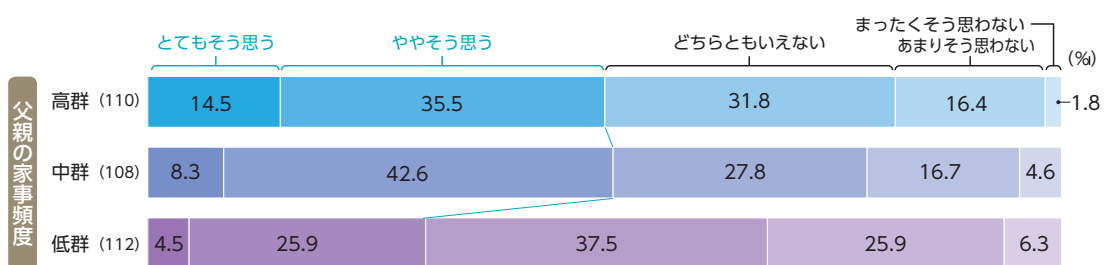


図4-6-6 父親の家事頻度と母親の仕事と家庭生活のバランス満足度(日本)



※ 父親の家事頻度得点…「食事の後片づけをする」「ごみを出す」「洗濯をする」の3項目について、「ほとんど毎日する」を4点、「週に3～5日する」を3点、「週に1～2日する」を2点、「ほとんどしない」を1点として算出し、平均点を出した。平均点を均等な分布になるように3分割し、「高群」「中群」「低群」とした。

日本の母親は、子育て、家事、仕事、仕事と家庭生活のバランス、生活全体の満足度が、4か国の中で顕著に低い。「とても」「まあ」の比率で見ると、多くの項目で、インドネシアとフィンランドの母親の満足度が高い。日本の母親の仕事と家庭生活のバランス満足度について、父親が「食事の後片付け」「ごみ出し」「洗濯」など、帰宅時

間が遅くても取り組める家事に取り組む頻度が高い場合、母親の満足度がより高い結果がみられた。帰宅時間が遅い日本の父親が、平日の育児や、食事づくりなどに取り組むことが難しい場合も、家事に取り組むことで、母親の仕事と家庭生活のバランスを支えていることがうかがえる。